
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 332 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.04.26 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 ☆☆ 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 新しいエネルギー文化への希望 安富六郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> 習慣の破壊

<巻頭言> 新しいエネルギー文化への希望

福島原発事故は、世界を揺るがす大事件となった。これををきっかけに、ドイツでは原発全面廃止の方向を宣言した。ほかにも、これと似た新しい生き方を模索している国もあると聞く。この原発事故の恐ろしさは、日本よりも外国の方が正しく世界に知らせているようだ。

「核」は覇権文化・文明のシンボルであり、今日われわれは地雷の上で暮らしているようなものである。この危険から逃れるには、人類は近い将来、核エネルギーから完全に脱却せざるを得ない。原発なしでも、余裕ある豊かな生活ができることが実証できれば、生活環境を重視する方向にもっと積極的に取り組めるであろう。

自然エネルギーへの積極的な対応と新しい文化創造への意欲さえあれば、原発からの撤退は可能な条件にある。にもかかわらず政府は、早急な原発再稼働や TPP 参加を前提に、明確な説明もせず、放射能安全神話、自由経済下での食料の外国依存の安全神話を再びねつ造して国民を惑わせようとしている。

現在の行き詰まった近代文明に対し、新しい方向を掲げなくてはならない。農業人にとってみれば、その基盤の一つに水田農業がある。日々の暮らしだけでなく、農業機械に必要なエネルギーもすべて、再生可能エネルギーを利用す

新しい農業文化への具体的展望を持つことが今、必要である。

震災被害を直接被った方々には、心からお見舞いを申し上げるしかないが、新しいエネルギー文化への希望こそ、福島原発事故が与えた世界的教訓ではなかろうか。その第一歩は、農業、農村を破壊する TPP への不参加と原発再稼働への警鐘を表明することから始まると思う。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> 習慣の破壊

春になるとヨモギやノビルが目に入る。一昨年まではそれを見ると「ああ 春来たなあ... 野の草を食べるパーティーの時期だなあ」と思ったものだ。それが昨年の東京電力福島第一原発事故で一変した。昨年は事故直後ということもあり見送り、今年もどうやらなさそうである。

ネットを通じていろいろと情報を集めようとするのだが、野の草の放射線汚染の情報はほとんどない。ごくごくわずかな団体（関東地方）が測定し、ほぼ問題はなだらうとしているくらいである。

東京電力福島第一原発事故への怒りはそれこそたくさんある。私的と言ってしまえばそれまでなのかもしれないが、わたしにとってはこの春のパーティーができなくなったことへの、いや、できるかできないかをわざわざ思案しなくてはならなくなったことへの怒りはたいへん大きい。

そうかと思うと、先日、都内のカメラ量販店の店頭で簡易型の放射線測定機器が大量に売られていた。原発事故以前であればありえない風景である。体温計で熱を測るように、身の回りの放射線量を測る... これが新しい習慣なのだと思えば——いや、被災地では現実にそのようになっているのだが——なんともやりきれない。

2012年04月26日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

- ◎戒谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>
- ◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
- ◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』
<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>
- ◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>
- ◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か
<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>
- ◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>
- ◎日本農業新聞／書評
(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>
- ◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

-
- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
 - 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
 - 3、1回1テーマ、10行位に。
 - 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
 - 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 333 号の締め切りは 05 月 07 日、発行は 05 月 10 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 332 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.04.26（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****